

参考資料1『前回審議会（7/30）の要旨』

<前回のまとめ・質疑>

- ◆公園施設の劣化状況について、安全確保を最低レベルの維持管理として、直接的に危険ではないさびや見た目の悪さなどには特に対応してこなかった結果、写真のような状態になったのか？
→（市）ご指摘の通り、必ずしも全てを十分に対応はできないので、安全安心の要素を最優先にして維持管理を実施している。

<公園の機能分担について>

【事務局提案】

●課題の概要

札幌市では狭小の街区公園が密集している地区があり機能重複（遊具）がみられる。狭小公園の多くは利用率が低下し、地域のニーズに適合していないと考えられる。

●公園の機能分担の考え方

公園機能の地域ニーズにあわせて公園機能を分担することで、機能重複・地域ニーズとのずれを解消し、また施設量を低減させて管理コストの縮減を図る。機能分担の対象は、同一の誘致圏（250m）に狭小公園がある場合とし、1,000㎡以上の面積が大きい公園を核となる公園として遊具等のリクリエーション機能主体にし、1,000㎡未満の狭小公園は遊具等を撤去し機能を絞って整備する。核となる公園がない場合、各々の公園で機能分担を行う。

計画にあたっては、機能分担を一体的に考えられるよう、対象となる複数の公園を同時に計画し、地域特性や意向を考慮するため、地域への説明会やワークショップを開催し、意見を取り入れる。

●機能分担の試行例

平成25年までに32箇所の狭小公園で、機能分担の考え方を取り入れた整備を試行。その結果、遊具総数が約49%減、整備コストが約24%減となった。

質疑・ご意見① 公園の機能分担の考え方について

- ◆機能分担の試行32箇所で、利用者数の変化についてデータはあるか？
→（市）利用者数の調査はない。主旨は異なるが、平成20年の試行後にアンケートを行った結果の場合、賛成が50%、反対が18%であった。
- ◆公園利用者を増やすことが目標なのか？
→（市）公園は多くの市民に利用していただきたいと考えている。
- ◆少子化が進み利用者も変化しているので、ニーズに合わせていくべき。
- ◆札幌市のみどり（公園）は充実してきており、機能分担を進める方向で良いのではないか。
- ◆都市公園は子どもにとって遊び場として、依然として重要な存在であることに留意が必要。
- ◆河川等の分断要素がある場合の誘致圏は異なる生活圏として分けるなど、実態に配慮した計画にしてほしい。
- ◆開発行為の公園確保規定は今も同じか？小規模公園がこれ以上増えないような対策はとられているのか？
→（市）現在も3%の規定はあるが、公園の最低規模が500㎡以上になっており、不足の場合は札幌市で買い増すことにしている。また、開発地区が既存の公園の致圏内にある場合、設置免除される規定にもなっている。
- ◆「地域の実情を把握した上で」など、具体的にどのように機能分担を地域と検討していくか、明確に示してはどうか。

質疑・ご意見② 狭小公園の統廃合・地域全体での視点について

- ◆狭小公園の廃止、スクラップアンドビルドなどもあり得るのではないかと？
 - ◆公共施設の有効活用を公園部局の中だけで考えていくのではなく、オール札幌市としての視点（大きな考え方）を持っていた方がよい。
 - ◆たとえば狭小公園を集めて緑道化するなど、エリアの中でマネジメントすることを考慮に入れてはどうか。その際は、市民の意向把握を公園のニーズ把握アンケートに頼るのではなく、まちづくりや都市全体のニーズから得るなど、手法に注意してほしい。
- （市）都市公園法には公園の保存規定があり、廃止は現行ではなかなか厳しいが、将来的には統廃合等も含めて検討する余地はあると思われる。具体化することは難しいと思われるが、話し合いの中でアイデアレベルでの提案は出ている。

審議まとめ

- ◆事務局案に賛同する。
- ◆以下の意見等を答申案に加える。
 - ・地域の説明会やワークショップなどについて、具体的な進め方や方向性について明示する。
 - ・地域住民の公園に対する意向だけでなく、地域全体の状況を把握した上で機能分担を進めていく。
 - ・都市公園は子どもの遊び場として、今後も重要な存在であることに留意が必要。

<有料運動施設のあり方について>

【事務局提案】

◆有料運動施設の考え

軟式野球場（32面）・サッカー場（8面）・テニスコート（131面）の有料運動施設について、更新コストが高いため検討の必要がある。

施設の必要数の考え方はピーク時の平均利用率が必要施設数（ニーズ）と考える。

◆野球場及びサッカー場

競技人口・利用状況がやや増加の傾向にあり、ピーク時平均利用率がいずれもほぼ100%であることから、施設数の見直し対象とせず、現状の施設数を維持する。

◆テニスコート

競技人口・利用状況がほぼ横ばいであり、ピーク時平均利用率が89%とピーク時でも施設が余っている状況であるため、施設数を見直す必要がある。施設毎の利用状況から、多面数を持つ公園や砂入り人工芝コートの利用率が高い傾向がみられる。

よって、①全体の設置バランスを考慮しながらピーク時の利用率が100%に近づくよう総面数を減らしつつ、②砂入り人工芝を標準のグレードとして整備を行っていく。

質疑・ご意見④ テニスコートの利用・運用状況について

- ◆ヒアリング先のテニス関係団体とはどこか？どんなヒアリングか？
 - （市）札幌ソフトテニス連盟（軟式）、札幌テニス協会（硬式）を対象に実施した。ヒアリング項目は競技人口や大会数の推移などである。
- ◆利用率が低い理由は？
 - （市）コートの仕様や、公園内の面数が考えられるが、はっきりとは掴めていない。
- ◆テニスの利用者を増加させることを目標にしているのか？
 - （市）利用率を上げる施策は進めていない。
 - 利用促進策みたいなものも合わせて考えることがあってもよいのでは。
- ◆有料コートと無料コートの維持管理費で差はあるのか？
 - （市）清掃費に差はないが、ネットや路面の補修などにおける管理レベルでは差が生じる。

質疑・ご意見⑤ テニスコートの整備方向について

◆配置バランスとは地理的なものか？

→(市)「増減のバランス」と考えている。利用率が高く増設が可能な箇所があれば増やし、利用率が低い箇所は減らすという両方をやりながらも、総面数としては減らしていきたい。

◆著しく空白になるような地域が生じないよう、地域的バランスも考慮すべき。

◆存廃の検討には、地域の民間施設など周辺的环境を考慮する必要がある。

◆将来ニーズの増減の把握はどうか？

→(市) 将来の予測は難しいため、利用率の変化をみながら検討していく。

◆テニスコートの廃止後はどうするのか？無料であれば利用する者もいると考えられる。

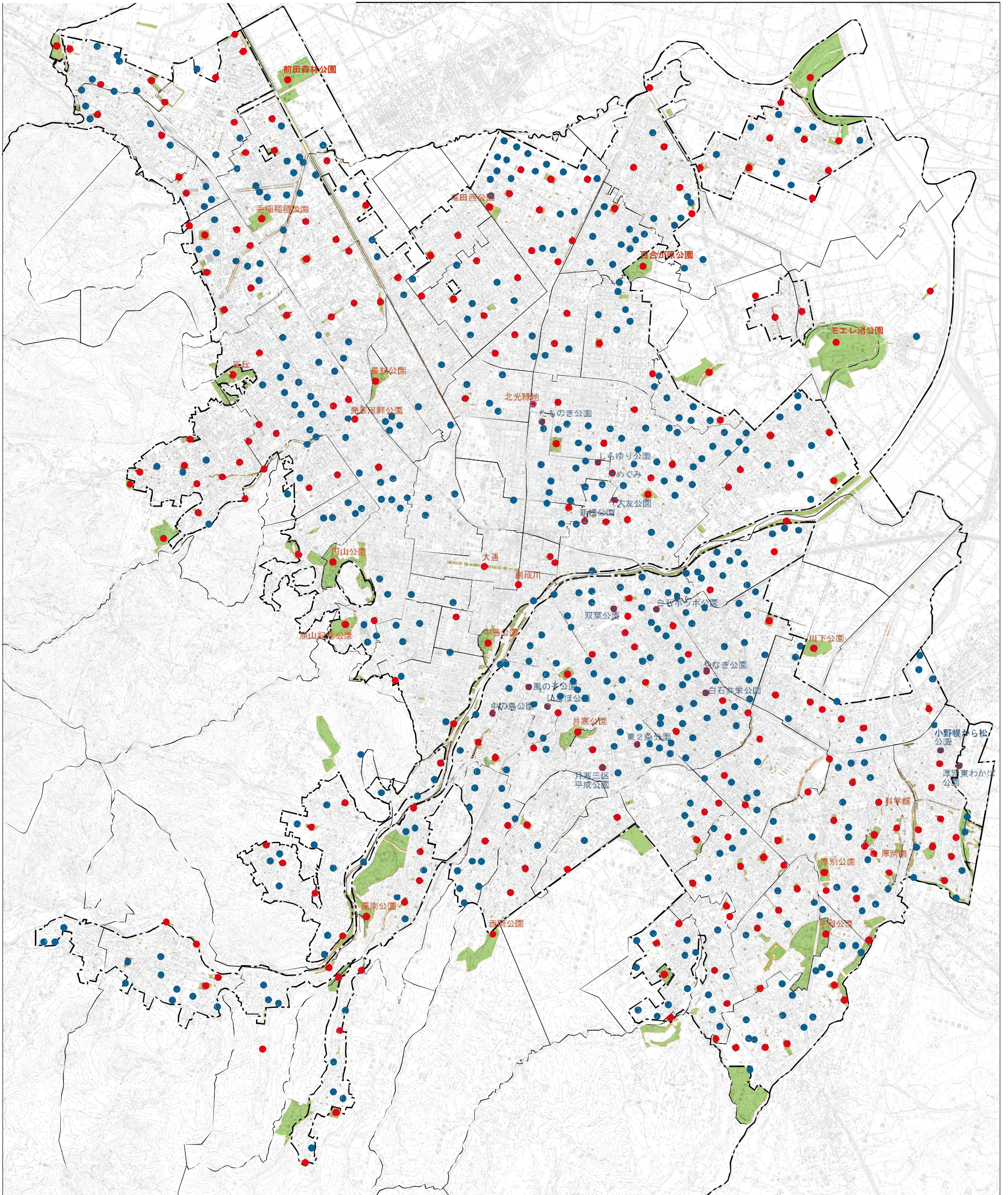
→(市) 地域の声を聞きながら検討する。無料コート化や芝生広場への転換などの選択肢がある。

審議まとめ

◆事務局案に賛同する。

◆以下の意見等を答申案に加える。

- ・テニスコート存廃の検討の際には、周辺の状況（民間施設の立地など）を把握する必要がある。
- ・テニスコートを廃止する場合、地域的な空白が発生しないようなバランスを考慮すべき。
- ・答申表現をわかりやすくする。



- まちづくりセンターライン
- - - 市街化調整区域
- 主な公園・緑地
- 街区公園
- 街区公園 (H24調査対象)
- 近隣公園・都市緑地・地区公園・総合公園・特殊公園・運動公園
- 都市緑地 (H24調査対象)

